

創業への心構えと準備を学びます！ 「創業セミナー＆個別相談会」

東海村創業支援ネットワークでは、今年も創業セミナーを開催します。
「会社を立ち上げたい」、「立ち上げた事業を軌道に乗せたい」、「創業に興味があるけれど、どうしたら良いのか分からない」、「どんな支援が受けられるのか知りたい」など、創業に関するさまざまな疑問・質問にお答えする貴重な機会となります。

各専門機関による個別相談会も実施しますので、創業に興味がある方や創業初期の方は、ぜひご参加ください。

日時▼2月15日(土)午後2時～4時30分
場所▼東海村産業・情報プラザ「アイヴィル」
定員▼先着20人
参加費▼無料

申し込み▼2月12日(水)までに、右の専用
フォームから申し込みください。

問い合わせ▼日本政策金融公庫日立支店
(☎0294-24-2451)、東海村創業支援室(☎212-5700)



▲申込はこちら



村松虚空蔵尊の後藤流彫刻

ふるさと歴史

～歴史を再発見～

村松虚空蔵尊の本堂には、向背や四隅に獅子が据えられ、松竹梅・牡丹・菖蒲・蓮などさまざまな植物が随所に彫り込まれています。寺社の参拝では、御利益、歴史、仏像などに関心が向けられますが、彫刻による寺社建築の装飾は見所の一つです。

本堂の彫刻を担当したのは江戸彫工の系譜をひく常陸後藤流の保之助(1863～1930、保重でした。江戸彫工は、日光東照宮に関わった彫工の流れをくむ彫刻師たちです。保之助の父は幕末から明治にかけて活躍した名工後藤縫殿之助(1825～1901)です。縫殿之助は文政8(1825)年、下総国猿島郡猫実村(坂東市)で農業を営む野口弥左衛門の二男として誕生しました。江戸京橋から笠間に移った宮大工後藤茂右衛門に15歳で弟子入りして修行を重ね、嘉永2(1849)年、24歳で後藤の姓を受けて独立しました。その後、成田山新勝寺本堂、笠間稲荷神社本殿など千葉県・茨城県・後藤流は一躍脚光を浴びることになります。明治10(1877)年には、東京上野で開催された第1回内国勸業博覧会に「獅猯」を出品して高い評価を受け、博覧会の審査官長であった内務卿大久保利通より花紋賞牌を授与され



【村松虚空蔵尊本堂「真向獅子」】

東海村文化財保護審議会副会長
宮内 教男

ました。

縫殿之助は笠間を拠点に活動しましたが、保之助は笠間から村松に転居し村松虚空蔵尊の本堂再建に関わるとともに、石神の願船寺の欄間や高萩市の瀧神社の社殿彫刻などを手がけました。村松虚空蔵尊本堂の獅子は、保之助が本堂彫刻の中でも最も力を入れた部分です。木の年輪を巧みに生かして胸や腰の力強さを強調し立体感を表現しています。

保之助の長男である縫殿(1897～1963)は、村松虚空蔵尊の鐘廂堂建築を担当するとともに、日立市の大甕神社拝殿や千福寺本堂などの彫刻に腕を振ります。縫殿は、村松虚空蔵尊の住職原智仙を師と仰ぎ得度する(僧の資格を得る)とともに、「仙」の一字を与えられ「桂仙」と号しました。さらに、縫殿は彫刻家高村光雲(1852～1934、光太郎の父)のもとに赴き彫刻を学び、伝統的な木彫技法を維持しながら西洋の写実主義を取り入れ新しい彫刻創造を目指しました。福島県いわき市の縫殿のこ子孫宅には、縫殿之助の花紋賞牌とともに村松虚空蔵尊の彫刻下絵などが数多く残されています。縫殿は、縫殿之助の偉業を継承する彫刻師としての自負と、村松虚空蔵尊の彫刻作成に対する意欲を生涯持ち続けました。



東海村発足70周年
最新情報はこちら



▲70周年記念
公式X